

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 4月 13日

研究・研修課題名	がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）
研究・研修組織名（所属）	医療サービス課
研究・研修責任者名（所属）	林 元之（医療サービス課）
共同研究・研修者名（所属）	中山 浩美（医療サービス課）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

この研修は、厚生労働大臣による指定を受けた「がん診療連携拠点病院」「特定領域がん診療連携拠点病院」「地域がん診療病院」「小児がん拠点病院」のいずれかに所属する者を対象としている。がん相談支援業務に従事する相談員が基礎的な知識および技術を習得することにより、がん相談支援実践の均てん化と充実を図ることを目的としている。

②方 法

日時：基礎研修（1）平成26年 5月 20日（火）～ 5月 21日（水）

基礎研修（2）平成26年 5月 21日（水）～ 5月 23日（金）

場所：財団法人日本教育会館 一ツ橋ホール

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

内容：【基礎研修（1）講義】

1. 「がん対策」

宮田 辰徳 厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課

2. 「相談支援」

橋本 久美子 聖路加国際病院 がん相談支援室

3. 「社会資源」

坂本 はと恵 国立がん研究センター東病院 ホープケアセンター/がん相談支援センター

4. 「精神腫瘍学」

小川 朝生 国立がん研究センター東病院 臨床開発センター 精神腫瘍学開発分野

5. 「臨床腫瘍学」

梅村 茂樹 国立がん研究センター東病院 呼吸器内科

6. 「緩和ケア」

木下 寛也 国立がん研究センター東病院 緩和医療科

【基礎研修（2）講義】

1. 「胃がん」

沖田 南都子 国立がん研究センター中央病院 消化管内科

2. 「アスベスト関連疾患とその補償について」

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 戸島 洋一 | 労働者健康福祉機構 東京労災病院 呼吸器内科 |
| 3. 「肺がん」 | |
| 堀之内 秀仁 | 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 |
| 4. 「がん検診」 | |
| 町井 涼子 | 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 検診研究部 |
| 5. 「臨床試験」 | |
| 江場 淳子 | 国立がん研究センター 多施設臨床試験支援センター |
| 6. 「がん予防」 | |
| 島津 太一 | 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 予防研究部 |
| 7. 「診療ガイドライン・エビデンス」 | |
| 渡邊 清高 | 帝京大学医学部附属病院 腫瘍内科 |
| 8. 「大腸がん」 | |
| 高島 淳生 | 国立がん研究センター中央病院 消化器内科 |
| 9. 「肝がん」 | |
| 近藤 俊輔 | 国立がん研究センター中央病院 早期探索センター 先端医療科 |
| 10. 「乳がん」 | |
| 田村 研治 | 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 |
| 11. 「血液がん」 | |
| 棟方 理 | 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 |
| 12. 「支持療法」 | |
| 細矢 美紀 | 国立がん研究センター中央病院 がん医療支援研究部 教育研修室 |

③成 果

この研修を通して、がん診療連携拠点病院において相談業務に当たる上で必要な基礎知識について学ぶと共に、相談員としての役割や課題についても再確認することができた。がん対策基本計画の中で、相談支援センターと診療科との連携を図り、精神心理的苦痛を持つ患者家族に対して専門家により診療を適切な時期に提供することが、取り組むべき施策としてあげられている。今年4月から、当院ではがん患者・家族サポートセンターが設置されているが、地域医療連携センターにおいても退院支援を中心としてがん患者に関わる機会は非常に多い。精神心理的苦痛を持つ患者家族に対し、他職種間の連携を図ると共に、サポートセンターとも十分に連携をとりながら支援していけるよう、情報交換と役割分担に努めたい。

退院支援等では、がんに罹患している患者・家族の方と関わるが、研修の講義の中ではがん検診についても触れられていた。がん検診を受けない理由の認識調査では、「健康状態に自信があり必要性を感じていない」、「必要な時はいつでも受診できる」といった項目が上位に挙がっており、そもそもがん検診の対象について誤解している人が少なくないことが窺えた。診断を受けた方だけでなく、健康な人ほど検診を受けるべきであり、患者・家族だけでなくすべての人に関わる事項である。また、検診の質においても、要精検率などの全国値の比較から、自治体や検診施設によってかなりの格差があるという課題が分かった。精度管理の均てん化が求められるが、よい検診施設を探す際にどのような情報が役立つかを知っておくことも重要である。必要正しい知識を持ってもらえるよう、相談員として検診に関しても正しく理解し、情報適用や教育的支援にも努めていく必要があると感じた。

相談支援の講義の中では、がん専門相談員の役割として「がん患者や家族等の相談に科学的根拠と、がん専門相談員の実践に基づく信頼できる情報提供を行うことによって、その人らしい生活や治療選択ができるように支援すること」と示され、がん相談の10の原則が挙げられていた。一つ一つ自分

自身のこれまでの実践を振り返りながら改めて学び、課題を再確認する機会となった。これまで相談を受けた際、クライアントの主訴にばかり目を向けてしまい、それが本当に必要な情報であるかをアセスメントすることが不十分だったのではないかと感じた。主訴の即時解決ではなく、クライアントにとって本当のニーズは何かをしっかりとアセスメントして見極めていかなければならない。クライアントの情報整理を支援するためにも、主訴の背景にある客観的情報をアセスメントする必要がある。これまでの自分自身の実践では、こうした点でアセスメントが不十分であり、今後より一層多角的にとらえる視点が求められると感じた。また、選択肢を提示する際にも、優先順位を考えずに多数提示するのではなく、次にしなければならないことを具体的に提示することも、今後心がけていきたいポイントの一つとして学ぶことができた。

研修全体を通して、それぞれのがん種についてだけでなく、がんに関わる多数の項目について学ぶことができた。相談支援の講義でもふれられていたように、相談員として信頼できる情報提供を行うことが必要である。クライアント自身が様々な情報源から情報を得ていることも少なくない。クライアントに正しく情報提供できるよう、今回学んだそれぞれの内容について、自分自身が理解を深めるとともに、何をよりどころにして情報収集するのかを知っておくことが重要であると感じた。また、島根県では、「しまねのがんサポートブック」が作成されており、療養生活の中で役立つ情報がまとめられている。このような資源もうまく活用しながら、根拠に基づいた正しい情報提供とアセスメントが行えるよう、自分自身の情報収集と相談員同士での共有にも努めていきたい。

今回の研修後、地域医療連携センター、がん患者・家族サポートセンターの MSW で報告会を行った。その中で、研修を通じての学びや気づきについて報告し、MSW 間で情報共有を図った。学んだことを伝達講習することで、院内の相談支援の質の向上にもつなげることができたと考える。さらに、他の MSW からの質問を受け改めて考えることで自分自身の理解を深めることができた。